

清流文化、世界の誇りへ

「人と鮎のつながり」農業遺産候補

「長良川を世界に発信していく」「地域活性化の弾みに」。長良川の鮎漁を中心とした「里川における人と鮎のつながり」が世界農業遺産の候補に選ばれた21日、県内の関係者からは期待の聲が相次いだ。認定を求める活動は今後、世界へ舞台を移す。

知事や流域市長ら期待

古田肇知事は「『清流』候補に選ばれてうれし『アピールしていく』と『流の国ぎふ』を代表すい。(認定の可否が決するのが長良川。日本の『まる』 来春まで全力で



長良川で行われる瀬張り網漁の網には、体長20センチほどの落ち鮎が次々とかかった。21日午後1時48分、岐阜市(撮影・堀尚人)

農林水産業推進協議会」の玉田和浩会長は「県庁で記者会見し「認定へ残る関門を何とかしてクリアしていきたい」と決意を表明した。流域の市長からも喜びの声が上がった。細江茂光岐阜市長は「鵜飼をはじめ、清流長良川の魅力が広く国内外へ発信されることを期待する」とコメント。尾関健治関市長は「登録へ向けて機運を高めていきたい」。武藤鉄弘美濃市長は「地域の活性化へ弾みとなる」と認

定を望んだ。日置敏明郡市長も「最終的な認定を目指したい」と意気込みを語った。岐阜市の長良川鵜飼の山下純司鵜飼代表は「先輩が代々、鵜飼を守り続けてきたことが候補選定につながった」と歓迎。小瀬鵜飼(関市)の岩佐昌秋鵜飼は「鮎をベースに鵜飼でつながる川の文化は世界に誇れる」と話した。「郡上鮎」ブランドを打ち出す郡上漁業協同組合の奥村義雄組合長は「今後も長良川の水源や流域の生態系保全に努めたい」。長良川中央漁業協同組合の尾藤義昭組合長は「名誉ある評価は大変ありがたい」と話した。長良川は流域の農業を支援している。JA岐阜と語った。